

# 被災地方言会話集

— 宮城県本吉郡南三陸町 —

## <場面設定会話>

### 場面設定会話の概要

収録地点	宮城県本吉郡南三陸町				
収録日時	2012（平成 24）年 7 月 7 日				
収録場所	宮城県本吉郡南三陸町入谷（話者 A 宅）				
話題	【場面設定会話】〔1〕 全 11 場面				
話者					
A	女	1939（昭和 14）年	（収録時 73 歳）	〔B の知人〕	
B	女	1928（昭和 3）年	（収録時 84 歳）	〔A の知人〕	
話者出身地					
A	南三陸町入谷（イリヤ）				
B	南三陸町入谷（イリヤ）				

【場面設定会話】

話し手

A 女 1939 (昭和 14) 年 (収録時 73 歳)  
B 女 1928 (昭和 3) 年 (収録時 84 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001B : ナント オメ ハエーゴダー。

なんと お前 早いなあ。

002A : Bチャンモ ズイブン ハエイナヤー。オリモ ハエイゲットモ

Bちゃんも ずいぶん 早いなあ。 私も 早いけれども

ズイブン アンダモヤー、ハエイゴダヤー。 {咳}

ずいぶん あんたもね、 早いなあ。 {咳}

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [2]

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [2]

〈 労い 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : オメーガ ホコデ ナニステダノ。

あんたが そこで 何していたの。

002B : イーマサ イモオ ホッテミッペト オモタツケ コーンナ

今さ 芋を 掘ってみようと 思ったけど こんな[に]

南三陸町 場面設定会話

チャッコグテサー マダ カリーネーヤ。 {笑}  
小さくてさ まだ 食えないよ。 {笑}

003A : オレ ケツカラ コ。  
私 あげるから 来い。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : オーイ Bチャン、ナヌステヤノ チョワ。  
おーい、Bちゃん、何していたの 今日は。

002B : ナニモ ステネー。イマ クサドリサ {笑}  
何も してない。今 草取りに {笑}

003A : オレサー、アノ タラスモズ コシヤエタンダ。(B ウン)  
私さ、 あの たらし餅 作ったんだ。(B うん)

ンダカラサ アノ (B モツ) クービス インビヤー オライサ。  
だからさ あの (B ××) 食べましょう 行こうよ 私の家に。

オジャコ ノンデーヤ クッピス。 [3]  
お茶 飲んでさ 食べましょうよ。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001B : イエスタガー。  
いましたか。

002A : ハーイ、イダヨー Bチャン、ヨク° キタゴダー。  
は一い、いるよ Bちゃん、よく きたなあ。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : Bチャン イダッタノー。

Bちゃん いたの。

002B : ハイハイ、イエスタ。

はいはい、いました。

003A : アノサ (B ン) イマ オレー タンボサ キテサ ツズ アゲッペト  
あのさ (B ン) 今 私は 田んぼに 来てさ 土 あげようと

シタツケ シャベロサー イダマッテ スマッタンダー。

したんだけど シャベルさ 壊れて しまったんだ。

ホンダガラ イマ カリデート オモッテ キタンダゲッドモー。

それだから 今 借りたいと 思って 来たんだけど。

004B : ドーゾドーゾ。モッテッテ ツカッテケッシェ。

どうぞどうぞ。持って行って 使ってください。

005A : ハイ {手を叩く音} ホンデア カリッカラ。

はい {手を叩く音} それでは 借りるから。

006B : ウン、モッテッテ ツカシエー。(A ウン)

うん、持って行って 使いなさい。(A うん)

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : Bチャン Bチャン オガゲサマデサー タンボ ツケーカラ

Bちゃん Bちゃん おかげさまでさ 田んぼ 近いから

アンタンドゴサ キテ カリタンダゲッドモヤー オガゲサンデ

あんたの所に 来て 借りたんだけどもさ おかげさまで

南三陸町 場面設定会話

イマ ツズ アゲオワッタ。ドーモドーモ。アラッテキタカラ。  
今 土 あげおわった。どうもどうも。洗ってきたから。

002B : アイアイ (A モッテルカラ) [4] ホントゲー。ハイハイ (A ウン)  
はいはい (A 持ってるから) 本当かい。 はいはい (A うん)

ドーモドーモ カエッテ ワルカッタネ。  
どうもどうも かえって 悪かったね。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アー Bチャン、サッキサ カリダイッチャ アノ スコップ。  
ああ Bちゃん、さっきさ 借りたじゃない あの スコップ。

ソステ (B       ) ツカッテミタッケサ ナーンドッケヤー イェ スッカー  
そして (B       ) 使ってみたからさ なんだろうねえ 柄 すっかり

ブンモケ° テスマッター。 {笑}  
もげてしまった。 {笑}

ホンダガラ ビツナノデ ケースガラヤー。カンヌンステケロヤ。  
そうだから 別な物で 返すからさ。 堪忍してくれよ。

002B : ナンボモ アッカラ。ソンナノ ケースモ ナンヌモ イラネーガラ  
いくらでも あるから。そんなの 返すも 何にも いらぬから

スンペー スネーデ。 ダイジョーブダガラ。  
心配 しないで。 大丈夫だから。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001B : Bチャン、タイフィンナコト ステスマッター、オレヤー。  
Bちゃん、大変なこと してしまったよ、 私さ。

南三陸町 場面設定会話

アンダヌ カリタ スコップヤー サッパド イダメデ スマッタ。  
あんたに 借りた スコップさ さっぱり 壊して しまった。

モースワゲネーナー。  
申し訳ないなあ。

002A : イダメテ スマッタモノ カダッタラ オレ オゴルズケラエルヤー。  
壊して しまったもの [夫に]話したら 私 怒鳴りつけられるよ。

カッテ ホントワ マヤッテ モラワナゲネーнда、 ホントワ。  
買って 本当は 弁償して もらわなければいけないんだ、本当は。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを物産市に誘う際のやりとり。

001A : Bチャン (B ハイ) キョーツシャ アリヤ アソゴノ ナヌデ  
Bちゃん (B はい) 今日さ あれ あそこの 何で

フッコーイズデサー ウリーカタ アルツツーカーラ オレ イク° ベト  
復興市でさ 販売 あるっていうから 私 行こうと

オモンダゲッドモ イカ° ネー。  
思うんだけど 行かない？

002B : オレ イク° デーゲッドモヤ ワゲーヒトニ [5] サソワレテ  
私 行きたいけれどさ 若い人に 誘われて

イカ° ンズラ [6] ワルイガラ。 オレ チョ イカ° イネーヤ。  
行かないというのは 悪いから。 私 今日 行かれないよ。

コレ モッタイネーナー。  
これ もったいないなあ。

003A : ア ザンネンダッタナー。  
ああ 残念だったな。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : Bチャン コンニチワー。(B ハイ) イダノスカー。  
Bちゃん こんにちは。(B はい) いるんですか。

002B : ハイ イエスター。  
はい いましたよ。

003A : ナンダカ キョ ゲンキ イーヨーダネー。(B ンダヨー)  
なんだか 今日 元気 良いようだね。(B そうだよ)

ハダゲサ (B チョワネー) イグ° ニイー。  
畑に (B 今日はね) 行くことができるの？

004B : ハダゲサ イッテネー (A ウン) ミツカト オモッテイダノ。  
畑に 行ってね (A うん) 見るかと 思っているの。

005A : ア。デハ イー。  
あ。それでは [もう]いい[の]？

006B : ソノ クセガ イグナッタカラ (A ウン) オカケ° サマデ。  
その / / / 良くなったから (A うん) おかげさまで。

007A : ハイ。デワ イガッタ イガッタ。(B ハイ)  
はい。それでは 良かった 良かった。(B はい)

(11-2) Bの調子が悪い場合。 [7]

001A : Bチャン イダノイダノー。  
Bちゃん いるのいるの。

002B : イダヨー。ア (A ウン) Aチャン オメ ヨグチタナー。ヘレヘレ。  
いるよー。あ (A うん) Aちゃん あんた よく来たなあ。入れ入れ。

南三陸町 場面設定会話

オレ コワクテ コワクテナー、ログナシコ° トモ スネケッドモ、  
私 疲れて 疲れてなあ、 ろくな仕事も しないけれども、

トスノタメダガ ナンダガ コワクテ トテモ オジデライネガラ。  
年のせいだか なんだか 疲れて とても 起きていられないから。

003A : Bチャンサー、アンマリ オメーサー (B ア ホンダラ オメ)  
Bちゃんさ、 あんまり あんたさあ (B あ そしたら お前)

カシグガラダー。ダガラ スコシ ヤスミナー。  
働くからだ[よ]。だから 少し 休みな。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」  
というときのやりとり。

001A : Bチャーン。  
Bちゃん。

002B : ハーイ。オメ ナンサ キタノ。  
はあい。あんた 何に 来たの。

003A : Bチャンガサー、アンベワリーッツカラサー、オレ ス オメーノ  
Bちゃんがさ、 具合悪いっていうからさあ、私 × あんたの

イタドコバリモ カタズケテケツカト オモッテ イマ キタンダー。  
いる所だけでも 片付けてやるかと 思って 今 来たんだ。

オイドゴ タノムガー。  
私を 頼るか。

004B : タノムガラ イラネーモノバ ナケ° テ カタズケテキロヤー。  
[あなたに]頼むから いらぬものを 捨てて 片付けてくれよ。



〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ  
て捨てようとしているときに、Bがそれを  
制止してどのようにいうか。

001A : Bチャー、コイズモ イーノガー。ナケ° テイーノガー。  
Bちゃん、 こいつも いいのか。 捨てていいのか。

コイズモ ゴミサ イレデイーノガー。ナンジョスツケー。  
こいつも ごみに 入れていいのか。 どうするかい。

002B : アレ、ホイズワ ダイズナモンダガラ ソイズバ ナケ° ネーデケロ。  
あれ、そいつは 大事なものだから そいつを 捨てないでくれ。

003A : ホンデーナー ナンダナー、コイツバリ ホンデ (B ウン)  
それじゃあな なんだなあ、こいつだけ それじゃあ (B うん)

トッテオクベナー。 アドワー。ドイズガ トルモノアルー。  
取っておこうね。 あとは? どれか 取る物ある?

004B : アダー ネーガラ ミンナ ナゲテケシェ。  
あとは ないから みんな 捨ててください。

## 宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（場面設定会話）注記

- [1] ここで公開する会話集の内容は、実際に収録時に得られた内容そのままではない部分がある。収録された会話の中には、自然な流れとは言えない部分があったため、資料作成にあたって音声の切り貼りによる編集を行っているからである。それでもなお不自然な部分が残るため、資料利用の際には注意を要する。また、話し手の二人は古い友人であるため、話者としての役割を演じながら笑い声が多く入ったり、発話内容にプライベートな内容を多く含む傾向にあった。
- なお、録音の一部には調査に同席した男性の笑い声や相づちなどが聞こえる箇所もあるが、それは会話進行に影響を与えないと判断して、特に文字として反映しなかった。
- [2] 当該場面における会話は十分な内容を採取することができなかつたため、未収録とした。
- [3] クッピス  
調査後にこの会話を話者本人に聞いてもらったところ、「クッピス」は正確に発音すると「ケアップス」であり「帰ったらどうだ」の意味であるとの内省を得たが、会話全体の流れや明らかに「クッピス」と発音していたことなどを総合して考えると、おそらく発話当時には直前の「クーピス」と同じ意味で用いていたものと判断した。
- [4] モッテルカラ  
調査背景の出来事に対する発話で談話内容とは無関係であるが、直前の音声と重複しているために省くことができなかつたため、さしあたって文字化をおこなった。
- [5] ワゲーヒト  
ここでは家族や友人などの若い人を指して言っている。
- [6] イカ°ンズラ  
南三陸町では共通語の「～という」に相当する形式は「ツツー」であるが、ここではそれが有声の「ズ」で発音されたものと解釈した。
- [7] 録音状態について  
この箇所の録音音声には背後にいる調査者の声若干入ってしまっているが、それについては文字化に反映していない。

**宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（場面設定会話）担当者**

**収録担当者**      内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）  
                         黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）  
                         福井 幸（東北大学文学部 3 年）

**文字化担当者**    内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）  
                         黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）  
                         福井 幸（東北大学文学部 3 年）